

令和6年度第1回名張市快適環境審議会会議録（概要）

1. 開催日時 令和7年2月28日（金） 午後2時から4時まで
2. 開催場所 名張市役所4階 404会議室
3. 出席者 委員 会長 朴 恵淑、副会長 益満 亮
安井 宣仁、林 貴宏、古市 哲也、伊藤 博之、福廣 勝介
事務局 環境対策室 恵村 和生（室長）、足立 和美、上角 健将、出口 佳奈
傍聴者 なし
4. 内容
 1. 環境対策室長あいさつ
 2. 委員紹介
 3. 会長あいさつ
 4. 議事
 - (1) 第三次なばり快適環境プラン達成状況・実施状況報告
 - (2) その他

1. 環境対策室長あいさつ

2. 委員紹介

3. 会長あいさつ

4. 議事

(1) 第三次なばり快適環境プラン達成状況・実施状況報告

〔資料 第三次快適環境プラン【R5 達成状況・実施報告書】の説明〕

【意見等】

○委員

各指標の達成状況の目標値について、数値が高い方が良い場合と低い方が良い場合があり、低い方が良い場合、一部項目には表記されていますが、全ての項目で「以下」と表記してもらえると分かりやすい。また、BODなどの「物理的な数値」と「市民が感じている割合」を同列ではなく、別枠として分けて表記した方が良いのではないのでしょうか。

○委員

専門的な立場の人から見ると分かるが、一般の市民の方々がこの数値を見た時に、改善しているのか悪化しているのかが分かるような色分けや丁寧な表現など、手間暇はかかると思うが検討していただければと思います。

○委員

施策項目、工場・事業場排出対策の指標として「工場、事業場への立入調査回数（三重県と合同）」がありますが、立入調査すべき事案がなかったため0回という理解でよ

いのでしょうか。県としてはお声がけいただければ目標値の2件と言わず、10件、20件でも一緒に行かせていただきますのでお気軽にお声がけいただければと思います。

○委員

事案が発生した際に立ち入るというよりも定期的に工場等を訪問して立ち入るということではないのでしょうか。昨年、自社の増築時に土壌調査で県の方に来ていただき、土壌改良後、名張市役所の方に来ていただいたがそれは含まれないのでしょうか。

○委員

ここには何の立入調査かの記載がなく、また、昨年お聞きした際は、土壌の未然防止と監視ということで鉛の含有量の測定が代表的なものという話であったが、今はフッ素も話題になっています。自然由来だと思うがこういったことは県のホームページでもオープンになっているので、その辺りの立入調査も含めてカウントしてはどうでしょうか。

○委員

快適環境プラン上、大気環境の保全というカテゴリーにおける工場・事業場排出対策の指標としての工場、事業所への立入調査回数と見ていましたが、幅広に土壌や水質環境の保全に関するものも含めるといえるのでしょうか。

●事務局

大気汚染防止法に係るばい煙発生施設の使用状況等について、三重県との合同の立入調査回数と考えています。

○委員

もう少し細かく分析した方が良いのではないかと。例えば名張クリーン大作戦の参加者数は把握しているが、年齢層やリピーター数などの詳細なデータを取る必要があると思います。単に人数が増えたから良いというわけではなく、新規の方や市外の方を取り入れるというような先のことを考えるのであれば、そういったデータがあれば新しいプランニングの際にも役立つし、実績があると具体的な話もできるのではないかと思います。

●事務局

参加いただける地域や企業様などからの参加人数のみを報告いただいております、そういったところまでは分析できておりませんので、参考にさせていただきたいと思います。

○委員

毎年、自治会としてクリーン大作戦に参加していますが、家族や世代単位で参加されるので、年齢を確認するのは難しいと思います。また、自治会ごとに活動への参加の差

もあると思います。例えば、ある地域では頻繁に河川の清掃を行っており、とても感心しています。あくまでボランティアなので競争するものではありません。ただ、この地域ではこんな取り組みをしていますよといった周知などがあると良いと思います。

●事務局

おっしゃられるとおり、各地域での競争ではないですが、そういった良い取り組みというのは、地域ごとに出されている広報などで比較できるのかと思いますし、その中で同じような取り組みをしてみようかというところが出てきたら良いのかなと思います。

○委員

施策項目、学校での環境教育の推進の指標「出前トークなどによる小中学校への環境学習の実施」について、本校でも環境対策室から出前トークとしてチップカーを派遣していただいております。チップカーは、三重県で1台しかないという非常に貴重な車両で、廃棄処分されてしまう木材をチップ化処理してマルチ材として地面に蒔く様子を見せていただき、子どもたちが環境について学ぶ機会となっているので非常にありがたいと感じています。学校としては、子どもたちには継続的に教育をしていくので一定の成果は出せるのですが、大事なのは、名張市はこういうふうを考えて動いているんだ、自分たちが見るまでにたくさんの大人が動いてくださっているんだっていうことを感じ取ったその先、例えば、お家に帰って名張市ってこんなことをやっているんだよ、ということを家族や地域の人に向ける、子どもたちの発信力というのが非常に重要視されておりますので、そこに学校としては目を向けていこうとしています。今後も環境対策室にご尽力ご協力いただけたら非常にありがたいなと感じさせていただきました。

○委員

カーボンニュートラルのことで自社での取り組みを申し上げます。まずは今どれぐらいの温室効果ガスを排出しているのかを調べるところからスタートしたのですが、事業所が名張だけではないので、データを取るのにかなり苦労し大変でしたが、まずは自分の事業所でどのくらい温室効果ガスを排出しているのかを調べてみましょう、くらいのが簡単に提言できるようにする、まずそこからだと思います。従業員1,000人規模の事業者さんでしたら調べることは可能かと思いますが、2、3人でやられているような事業所さんもたくさんあると思うので、簡単に取り組める方法、例えば毎月の電気使用量や車両のガソリン代をつけておくなど、それだけでもしてもらおう。そういうデータだけでも持っておいてもらえれば次のステップにいけるのではないかと思います。

○委員

水の安全はどうかといったところで、施策項目の安全な水の供給、排水対策、水質の監視・保全で、目標が達成されている指標がありますが、それが分かりやすいと良いの

かなと思います。目標が達成しているということは住民の方にもご協力いただいて、綺麗な水を保っているということですし、ごみに関する指標を見ても目標を達成しているので、そういった点をぜひPRしても良いのではないかなと思います。

○委員

私からは一緒に考えていただきたいことを申し上げたいと思います。まず、この経年変化を含めた数値というのは、誰のためのものなのかということを考える時期に来ているのではないかと思います。専門家ばかりが見るのではなく、名張を愛する市民の皆さんが、市のホームページでこの資料をご覧になるとと思います。誰一人取り残さない快適な名張を繋げてもらうということを考え、若い人たちにも関心を持っていただくために、この数値を見れば良いということではなく、なぜこの数値が出てくるのかということをお原点から考えた時に改善点が3つあると思いました。

まず1つ目が、現在の表では、平成26年の現状値、令和2年の中間値、令和5年の現状値、令和8年の目標値だけが示されていて、その間の数値が分かりません。せめて令和2年以降の年ごとの数値が見えるようにし、市民が目標達成までの進捗を把握できるようにこの表の見せ方、作り方を変えていただきたいと思います。

2つ目に、表を見れば分かるのではなく、うまくいっている点や課題が一目で分かるような簡単な概要・解説をつけていただきたい。数字だけ羅列するのではなく、子どもから高齢者まで誰でも分かるような、みんなのためのものというものが欲しい。

3つ目は、名張市の経年変化に関する強みのアピール、弱みの改善を市民の目線で欲しい。行政だけでなく、産官学民パートナーシップなどみんなでやっていけば良いと思う。例えば、1人1日あたりのごみ排出量は689gと欧米並みで日本で見てもトップレベルなんじゃないかと思うくらいとても良い数値だと思っています。市だけでは負担であれば、私たちも協力しますのでしっかり強みをPRしていく。逆に、弱みは改善していき、来年楽しみにしていてねというようにしていければよいと思う。

さらに、日本では統計値が2年後に出る傾向があり、それでは時代が変わっていて現実感がないので、出せる情報は速報として出し、誤りがあれば後で修正すれば良い。メリハリをつけて市民目線での発信を是非していただきたいです。

●事務局

経年での増加・減少、目標に向けてどういう傾向にあるのかといったところが多少分かりにくいような表でありますし、またその分析といった部分も、少し分かりにくいかなと思いますのでその辺については改善できるように、研究して参りたいと思います。

○委員

経年変化をどう評価したのかを書いてもらえたら、私たち素人としては意見を言わせてもらい易いかなと思います。それがあれば、これはすごいとかこれで安心していたら

ダメとか言えるが、今はこの表から読み取らないといけない。また、先ほどの委員の3つ目におっしゃられた「強みを言え」というのは、どちらかという弱みを言ってそれに対して、前向きに何か対策をするというのがいいように思う。環境対策室という名前なのかもしれないが、僕は環境創造室とした方が良いと思っている。

○委員

どんな地域にも必ず強みと弱みがあります。強みについては、市民のおかげ、みんなで行っているからと言っていけば良いと思います。反対に弱みについては、一緒に改善していきましょうと訴えかけられるし、それを若い人たちが発信してくれることも期待できます。また、担当者に気軽に意見を伝えられる広場のようなプラットフォームがあると良いのではないのでしょうか。すでにワークショップなどの取り組みはあると思いますが、主催者任せにせず、みんなで一緒にやりましょうという形にできれば、無理なくいろいろな意見や情報が入ってくるのではないかと思います。

○委員

環境課題というのは、どの仕事をするにしても必要不可欠なものだと思うので、市役所各部署に環境係や環境担当を1人ずつでも置いて、このような審議会を開く際に、その人たちで集まって意見を出してもらい、事前に話し合ってもらえたらと思います。

○委員

かつて環境は、環境汚染を防ぎより良い環境を維持するために法律や基準を設け、それを守るよう規制するというのが多くありました。しかし今はそれよりも生活の質を高めるために、規制という概念は取っ払い、環境は生きるための術として考えると良いのではないかと思います。環境と括ると少し抵抗があるのであれば、サステイナブル、持続可能ななど若い方々がコミュニケーションを図れるような場を作っていくことが1つ名張りの強みなんだよとなれば良いかなと思います。どの仕事でも環境に繋がっていて、誰かがどこかでやらなければならないので、みんなで協力してもらえたらなと思います。学校の先生方は子どもに教えるときに今、タブレットとか配っているのですか。生徒は、すぐアクセスすることができるのですか。

○委員

アクセスできます。中身にもよりますが、各教室授業で使わない日は多分ないです。調べ学習等でも当然使いますし、学校にもよりますが、電子書籍を有効活用している学校もだんだん出始めていますので、快適環境プランの解析の捉え方にもよるかとは思いますが、子どもたちにとっての快適な学習環境という意味では、1つ資する部分はあるのかなと思います。ただ、健康面での懸念として、画面を見すぎではないのかということところが非常に課題です。家庭での使い方とのバランスの問題。積極的に活用させたいけ

れども、子どもたちの健康面や情緒的な発達などを考えると、どうやってその整合性、バランスを図っていくかというのは本当に難しい課題です。

○委員

若者が市長とトークする時間とかそういうのがあっても良いですね。市長さんも忙しいでしょうけど、たまには時間を少し作ってもらってオンラインでも対面式でも何でも良いのでそういう時間が取れたら良いのではないかなと思います。

○委員

自校の場合では15歳から20歳の学生が多く、情報発信に強い学生は非常に多く、身近に関わることなど名張市で何かこんなことしているよと言うと、とても興味を持ちます。例えば、地域の方である教授がいらっしゃるのですが、地域のコミュニティバスのイベントなどをしているとすごく興味を持つ子がいますので、こういうことをしていますよということをもっとPRしていただくと、そこからどんどん情報が発信していくのかなと思います。名張市も少子高齢化の中で、そういったところに若い力を、という意味では、自校の学生をうまく巻き込んでもらえると面白くなるのかなと思います。

○委員

良いですね。いきなり市長とトークと言うと市長も緊張するかもしれないので、まずは小学生、中学生と、高等専門学校のお兄さん、お姉さんと一緒にコミュニケーションを図り、ゆくゆくは市長とお話をしましょうとか、そういう形になってくると面白いのではないかなと思います。私の生まれ育った国の授業では市長は、よく学校に呼ばれていますよ。市長が忙しかったら秘書が対応していて大変だなあと思うのですが。日本ではまだ、学校の授業の中で知らないこと、言いたいことがあっても市長と直接繋がるということはあんまりないように思いますが、早かれ遅かれそういう時代が来ると思うので、それならば名張市がトップランナーでいきましょうよということで、若者同士でいろいろ効率を図るということも良いのではないのでしょうか。子どもたちにとって、先生から教えていただくのも良いのですが、近くにいるお兄さんやお姉さんから、これはこうだよって教えてもらって学んでいくというのは、すごく忘れられない経験になると思うので、オンラインでも、どこかで1回やってみましょうか。こういうことをやっていくためには、環境対策室だけではなくて教育委員会など通さないといけないのですか。

○委員

教育委員会を通しての報告もありますけど、直接でもしています。実際に近大高専さんとつつじが丘小学校さんでは連携事業もすでに実施しており、近大高専の先生が引率という形になっているかとは思いますが、学生さんを連れて小学校の方に来ていただき、ロボットやプログラミングの考え方の授業などをさせていただいております。会長がおつ

しゃっていただいていたのは、タブレット等を使ったりリモートでのことかと思いますが、そういったものも当然できるのかなと思います。教育委員会では小中学校を所管しております学校教育室が携わるとしますので、1つこういったテーマを持って、連携事業ができないかということで相談をかけるということはあると思います。ただ学校現場の置かれた現状を見ると、なかなか厳しそうだろうというのは直感的に感じます。

○委員

今の話は、このプランそのものを子どもたちにも考えてもらうというお話ですよね。前回から言っているかもしれませんが、この審議会にもっと公募委員や名張市民に参加してもらった方が良いのではないかと思います。実際に市民同士で話してもらうことが結果的にもものすごい環境活動広報になると思います。川の会名張に所属している方がいるのですが、川博士になろうという題で小学校に話しに行っています。こういうことを子ども向け、大人向けにも話してもらうと広報としてはものすごく良いのではないかと思いますし、名張は環境問題に対して凄いい関心があるとなるのではないのでしょうか。また、木津川上流河川事務所さんと一緒にやってみるのも良いかなと思っています。名張市民にこんな方がいるって名張の宝だと思うし、他にもたくさんこういう人がいると思います。こんなこと話したい、あの人こんなこと話せるよと、いろんな人が集まって市民考案会みたいなものができたらおもしろいかなと思います。

○委員

一昔前になるのですが、ゆとり教育の時には、私もいろんな学校に行って遊びながら環境を学ぼうということをしていました。それで学力が落ちたということがあり、学校側はあんまり外部の人は呼ばないようになったのかなと思っています。例えばスーパーサイエンスハイスクールやスーパーハイスクールからは、お声掛けいただき、1年生とか2年生に向けて特別講演等をしていますが、小学校にはあんまり呼ばれていないので、厳しいのかなと思っているのですが、ゆとり教育とかはしなくなったのですか。

○委員

水に関わる学習単位としては、大体5年生が該当するかなと思います。理科の単元の中、それから、総合的な学習の時間でも出てくると思います。ゆとり教育のことに関しては学力面の話とよく言われる話ではありますが、今は総授業時間数が、もうこれ以上増やせない、限界ギリギリのところまで達してしまっていますので、そこを何とか、むしろ逆に過剰に時間数を設定しすぎじゃないですかという分析を頂戴しているぐらいなのです。名張市では、ばりっ子の食に関する教育の部分や「なばり学」という名張の伝統文化について学びそれを伝え、引き継いでいくための人材を育成するという観点で、小学校1年生から中学校3年生までに9年間通して学ぶ機会を作っているのですが、そういった中で1つの枠組みとして、この水に関わる部分の取り組みというのは全く悪い

話ではないと私は感じますが、実際どんな形で取り組んでいくかというのは各学校に任されているところであります。名張川の河川改修中であるということも絡めながらのコミュニティスクールとしての取り組みもあろうかと思しますので、そういった中で、地域と一体となって学習を進めると、非常に魅力あるものになるのではないかと考えて聞かせていただいております。

○委員

いろいろなことをしていらっしゃる中でどのように情報発信されているのかというのをこれから名張市のホームページなどにアクセスして見てみようと思います。県もそうだし、うちの学校でもそうですが、ホームページの管理はとても厳しく、変なことを掲載すると責任は誰がとるのかとなってしまいますが、いろいろな方法を工夫しながら、より多くの方々、アクセスしてくれる方々に情報を伝達できるよう、少しずつでも掲載していく必要があるのではないかと思います。こういった達成・実施状況等の報告資料はしっかりホームページに掲載いただいて、若者、お年寄り誰にでも分かりやすく、アクセスしやすいようにしていただき、より多くの方が名張の環境に関心を持ち、アクセスがパンクするくらいになれば良いなと思います。また、名張市の環境に関心がある、そのスキルがある人たちが繋がっていけるような環境が作れたら名張市はトップランナーでいけるのではないかなと思うので、是非とも今回の話し合いが我々委員や関わる一部の人たちだけに留まるのではなく、オープンにしていってもらえればと思います。特に、先ほども述べましたが名張市の1人1日当たりのごみの排出量が689gというのは、本当に驚異的なもので、普通は1kgを超えるのに、その平均の6割しか出さないのはなぜだろうと不思議に思います。だから、名張は究極の循環型社会で先のトップランナーなのかもしれないのです。私ならそう書いてPRします。

○委員

この強みをPRして公表したらいろんなところから電話が入ってきたりして、対応が大変になるかもしれないが、議論をするという抜群の環境教育になるわけですよ。部屋でする環境教育もよいが、そういう話し合いができるのは抜群の広報にもなると思います。

○委員

なぜ出すごみの量が少ないのか、どこで処理をしているのか、市民のみんなが3R以外のところで何かをしていらっしゃるのではないのかなと思います。

(2) その他

●事務局 [次年度審議会の説明]

以上